

# 主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	佐藤 健
主論文題目： 第二言語語彙学習におけるイメージ・スキーマ理論の応用：学習者要因を考慮したビジュアル・アノテーションの効果研究				
(内容の要旨)				
概要： 本研究は、外国語としての英語習得における語彙学習の重要性を「多義語」と呼ばれる語彙に着目して考察した上で、その理解・学習を補助するメディアとして、認知意味論の主要概念である「イメージ・スキーマ」を用いた図的注釈（ビジュアル・アノテーション）を開発し、その教育的効果を検証した。その過程で、イメージ・スキーマの概念を用いた図的注釈は、1) 様々なメディアを同時提示し、動的かつ立体的なイメージを表示できるマルチメディア環境にて開発することが有効であること、2) 開発されたイメージの効果は、多義語の比喩的意味を理解・産出する際に特に顕著に表れること、そして3) イメージの効果は学習者自身が持つ要因（情報処理スタイルと母語）に影響されることを明らかにした。				
理論的背景： 本研究は、外国語としての語彙習得研究 (Second Vocabulary Acquisition)、コンピュータ支援外国語教育 (Computer Assisted Language Learning)、認知言語学 (Cognitive Linguistics) と複数の学問領域に跨る学際的研究のため、本研究がすべての領域において意義のある研究であることを、先行研究を用いて議論した。				
本研究の新規性： 1. 第二語彙習得において習得困難な項目とされる、前置詞などの多義語の意味理解と産出に、認知言語学の主要概念である「イメージ・スキーマ」を援用した図的注釈を学習教材として実際に開発し、その効果を実証的に検証したこと。 2. イメージ・スキーマ的注釈を動的かつ立体的に表示することが、語彙が持つ空間概念をより明確に理解できるという仮説を立て、イメージを開発したこと。 3. イメージ・スキーマ的注釈の有効性は、比喩的な意味の理解や産出に有効であることを実証的に証明したこと。				

4. 学習者の情報処理スタイル、及び母語がイメージ・スキーマ注釈を用いた学習効果に差を及ぼすことを実証的に証明したこと

実証研究による知見：

1. 多義語理解において、具体的状況を示したイメージ注釈は、言語でそれを示したものと理解度に差が見られない。
2. 英語空間前置詞学習においてその空間概念を注釈として提示する際に、言語で記述する場合よりも、イメージ・スキーマに基づいた図で示した方が学習効果が高い。
3. 平面的・静的なものと立体的・動的なイメージ注釈の間に有意な学習効果の差が見られない。
4. イメージを介して情報処理を行うスタイルの英語学習者(imagers)の方が、言語を介してそれを行う者(verbalizer)よりも、イメージ・スキーマ的注釈による学習効果(正答率及び解答時間)を得ることができる
5. 英語空間前置詞に共通する空間概念を持つ中国語を母語とする英語学習者の方が、日本人英語学習者よりも動的イメージの効果がすぐに表れる一方、日本人母語話者は効果は遅れて表れる

本研究の意義と示唆：

本研究の意義は、イメージ・スキーマ理論を用いた注釈は第二語彙習得のための補助として利用することが可能であり、それをマルチメディア環境においても実装可能であることを証明したことに加え、言語理論の応用を行うには、学習者の情報処理スタイルや母語という、学習者側が持つ要因にも配慮したうえでその形態や提示方法を調整することの重要性を指摘し、今後の言語理論と教育の橋渡しとなる視座を提供したことにある。

キーワード：外国語としての語彙習得、多義語、イメージ・スキーマ、マルチメディア学習、学習者要因